

Fukuro 第3号

1. 3年生 修学旅行

修学旅行に向けて、けやきこぶし学級では、事前に予定や持ち物を何度も細かく確認し準備をしました。

また、公共の場で一般の方と接する場面が多く想定されるため、自立活動の時間には、「困ったときにどうする」という教材を使って事前学習を行いました。

修学旅行当日。流山おおたかの森駅から、通勤ラッシュの電車に乗って東京駅に向かいました。また、新幹線ではおおぐろ中生以外の乗客と同じ車両で新大阪駅までの約2時間半を過ごしました。いつもと違う環境でしたが、それぞれの生徒が一般の方を意識し、マナーを守りながら行動することができました。

大阪万博では、各国のパビリオンを班の仲間と楽しく見学しました。「想像より、とても楽しかった」、「各国の文化に触れて、いつか海外に行ってみたいな」など生徒たちは、様々な感想を持ったようです。

2日目、3日目の京都では着付け体験や日本文化に触れる体験など様々な学びを得ながら、けやきこぶし学級の生徒たちは、友達と協力して過ごしました。

生徒たちに、修学旅行の思い出を聞いてみました。

○「疲れたけどとても楽しかった。」

その言葉の裏には、一生懸命活動していたからこそ得られた充実感があつたのではないかと思います。旅行行事を楽しむために、自分の体調や気持ちとも向き合いながら、仲間との時間を大切にしようとする姿勢が随所に見られ、皆さんの成長を感じました。

○「仲間にたくさん支えられていることに気がついた。」

こんなふうに言ってくれた人もいました。トラブルがあったとき、迷ったとき、疲れて足が止まりそうになったとき、そっと声をかけてくれた仲間が皆さんの周りにはたくさんいました。そうした人の優しさを感じることができたこの旅は、心の中にも深く残ると思います。

修学旅行を終えたけやきこぶし学級の生徒たちは、今、教室でより頼もしい姿を見せてくれています。

自分のことを自分で行う姿勢が身につき、掃除や整理整頓、時間割の記入など、自分のやることを意識して行動する姿が見られるようになりました。以前は声かけが必要だったことも、今では自ら進んで取り組んでいます。

また、相手への気持ちの伝え方も上手になり、困っている友達に優しく声をかけたり、言葉を選んで想いを伝えたりする姿が見られます。旅を通して育んだ優しさが、日々の関わりの中にも生かされています。

さらに、仲間を思いやる行動も増え、連絡ノートを全員分まとめて配ってくれるなど、さりげない気配りに大きな成長を感じています。

修学旅行は、ただの行事ではなく、自分や仲間、社会と向き合う貴重な機会になりました。その経験が、今の教室で確かに実を結んでいます。今後もこの学びを生かし、さらなる成長を支えていきたいと思っています。



2. 2年生 Grow School

5月25日から3日間、Grow Schoolが行われました。コミュニティプラザからバスに乗り込み、車内では、各クラスの合唱部会が準備したバスレクを行いながら元気に出発しました。行き先は、流山市の姉妹都市である信濃町。信濃町で最初に行った活動は、農業体験でした。信濃町の特産品であり、本校の給食にも提供されるトウモロコシの苗植え体験です。その数、何と4,000本！いつも何気なく食べている食材を提供してくれる農家の方々の大変さやありがたさを感じられる体験だったのではないのでしょうか。汗を流した後は、関東ではあまり見たことのない“とうもろこしジェラート”を美味しくいただきました。

宿泊地の黒姫高原ホテルでは、夕食後にホテル近くの広場でキャンプファイヤーを行い、皆で火を囲みながら、各クラス誓いの言葉を発表したり、フォークダンスを踊ったりしました。そして最後にはサプライズで花火があがりましたが・・・霧がすごくて、かろうじて緑？赤？が判別できる程度で、先生方は肩を落とした場面でした。しかし、「きれいな音！」とポジティブな言葉も飛び出し、仲間同士、絆を深め合える、楽しい時間を過ごしました。思い出に残る時間になったことでしょう。

大浴場でお風呂に入った後は、各クラス学級会が行われました。その後は部屋でのんびり過ごす生徒、カードゲームで盛り上がる生徒、ホテル内の売店でお土産を真剣に選んでいる生徒・・・様々な姿がありました。

2日目は民泊体験です。けやきこぶしの生徒は、山菜の収穫、畑作業、茅葺き職人のお宅にお邪魔させていただきました。当日の天気は曇りで、標高300m程に位置するため、肌寒いくらいでしたが、たくさんの生き物や植物を見つけながら、初めての経験を沢山させていただいたようでした。

3日目は善光寺周辺の班別行動。班員と楽しそうに話しながら食べ歩きをしたり、お土産を購入したりしました。

今回のGrow Schoolの中で、皆の良い所をたくさん発見することができました。部屋では自分で荷物を整え、時間を見ながら行動することができていて、本校の教育目標である『自律』に向けて前進できたのではないのでしょうか。また、交流学級の生徒とも一緒に遊んだり会話をしたり、お互いの良いところを発見したり「協働」しながら生活することができました。Grow Schoolのスローガンにもあるように、仲間とつながり、絆を深めることのできた3日間でした。そして、信濃町の方々の温かさにも触れることができました。これからの2年生の成長と共に、とうもろこしの成長も楽しみです。



3. 1年生 校外学習

6月4日に校外学習で丸木美術館を訪れました。朝早い時間での集合でしたが、けやきこぶし学級の生徒たちは元気に登校し、コミュニティプラザからバスに乗り込み、笑顔で出発しました。バス内では各クラスのレク係が準備したバスレクを行いながら丸木美術館へと向かいました。

丸木美術館では「原爆」を中心とし、「公害」や「戦争」などをテーマにした絵が様々あり、後世に残すべき歴史の絵を鑑賞しました。学芸員さんから説明を受け、けやきこぶしの生徒たちも真剣に絵を鑑賞しながら、感じたことや感想をしおりにメモを取り、静かに見て回りました。

武蔵丘陵森林公園に到着すると集合写真を撮影し、各クラスで昼食を食べ、オリエンテーリングに出発しました。班ごとに分かれ、チェックポイントを、地図を見ながら回り、互いに協力して活動していく中で、クラスとの絆が深まった様子でした。

後日、学級で校外学習の調べ学習を行い、校外学習新聞を作成しました。事前学習で、戦争や原爆について学習していたので、今までに活動して学んだ内容がつまった新聞の完成です。今後の学級活動や学校行事等にも活かしていきたいです。

学校外での行動やグループ活動などを通して、仲間を思いやる姿や自分で考えて動くことのできる場面が増えていきます。クラスメイトとの会話も増え、以前よりも関わりを持つ生徒も多くなっています。校外学習で見つけたお互いの良さを尊重し、充実した学校生活を過ごしてくれることを願っています。



4. 夏休み

夏休みは様々なことにチャレンジできるチャンスです。生徒たちにとって、充実した時間になることを願っています。また、夏休みをどのように過ごしていくのか考え、準備を行っていく予定です。

①元気に日々を過ごしていくために・・・

健康であること、元気いっぱい日々を過ごせることが一番です。そのためには、毎日しっかり睡眠時間をとったり、食事をとったりなど規則正しい生活を過ごせるように声掛けをお願いします。

②中学生の夏休みの過ごし方

【学習】

「普段は忙しくて中々挑戦できないこと」、「やってみたいけど、今までできなかったこと」、「熱中していることをさらに追及すること」等、自分の興味関心を広げる・深める、充実した夏休みにしてほしいと思います。それと同時に、自分の好きなこと・得意なことをさらに伸ばす、自分の苦手分野を克服する絶好の機会でもあります。1学期の振り返りを一緒にしながら、夏休みの学習についても個別に支援していきます。

(学習の例)

- ・1年生は苦手を克服する、小学校の復習をする
- ・2年生は中学校1年生の復習をする、1学期の学習内容を復習する。
- ・3年生は基本問題を習得しよう、応用問題にも挑戦

【色々なことにチャレンジ】

- ・英検やプログラミングなどの資格を取得する
- ・やりたいことに打ち込む
- ・読書習慣を身につける
- ・家族との時間を大切にする
- ・博物館や美術館を訪れてみる
- ・朝早起きして運動を試みる

【お手伝い】

整理整頓・洗濯・料理・買い物等、生徒たちが家でできる役割はたくさんあります。是非、日常的に家事の経験をして、社会に出た時に“自分のことが自分でできる力”をつけていきたいと思っています。ご家庭での声掛け等、よろしくお願いいたします。

5. 進路について

中学生の進路選択は、子どもたちの将来にとって大きな節目となるものです。義務教育を終えた後にどのような道を歩むか、それは「夢」「希望」「特性」など、様々な要素が絡み合って決まっていくものです。私たちはその一步を丁寧に支えていきたいと考えています。

特に、思春期にあたるこの時期の生徒たちは、心身ともに大きく成長する一方で、不安定さや揺れ動く感情を抱えています。だからこそ、ご家庭と学校が連携して、生徒の声に耳を傾け、一緒に将来を考えていくことが大切だと考えています。

おおぐろの森中では、「自分の意志で進路を選択できる生徒の育成」を進路指導の柱としています。進学、就職、特別支援学校高等部への進学、通信制高校など、選択肢は様々です。どれが良い悪いではなく、「その子に合った道はどこか」を一緒に考えていきたいと思っています。

進路を考える過程は、将来の夢や生き方を思い描く力、自ら必要な情報を調べる力、自己理解能力を養う絶好の機会です。だからこそ、単に進学先や職場を決めるという表面的な判断ではなく、「自分の人生を自分で考える力」を身につけることを目指しています。

○将来の夢や生き方を考える進路学習

進路指導は3年間を通して計画的に行っています。

【1年生】夢や希望を考え、自らを知る。

【2年生】働くことや職業の種類、進学先の情報を学ぶ。

【3年生】進路を具体的に考え、希望先を調べ、選択する。

このような流れの中で、生徒は自分の興味・関心や適性、能力(特性)を見つめ直し、自分に合った進路を模索していきます。

○進路の選択はどのようにしたらよいか？

① 自分を知ること

興味のあること、得意なこと、苦手なこと、生活習慣、学習の様子など、多面的に自分を理解することが進路選択の第一歩となります。「自分の強みって何だろう?」、「自分の理想とは何だろう?」と、家庭での会話や学校生活のふり返りを通じて、少しずつ言葉にしていけるよう支援していきます。

② 情報を集めること

進学先や職業について調べ、体験し、見学することが大切です。高校のパンフレットやホームページの閲覧、説明会・体験入学への参加など、より現実的な判断ができます。特に通信制や専門学校との併修、サポート校の活用など、それぞれに合った柔軟な選択肢も存在しています。

③ 自分で選ぶこと

進路の決定は、生徒本人が主役です。保護者や先生のアドバイスも大切ですが、最終的には「自分が選ぶ」という意志を大切にしてほしいと思います。選択のプロセスを通して、「自分の人生に責任を持つ」ことの一步を踏み出せるよう、丁寧に支援していきます。

○ご家庭と一緒に考えたいこと

進路指導は、生徒・学校・保護者が三位一体となって取り組むものです。以下のような視点をぜひご家庭でも共有していただければ幸いです。

- ・子どもの特性に合った進路とは何か？
- ・将来、どのような生き方・働き方をしてほしいか？
- ・どんな環境でなら、その子らしく過ごせるか？

また、「どうせ自分なんて…」と自己肯定感が下がりがちな時期でもあります。ご家庭でのちょっとした励ましや認める言葉が、進路を切り拓く大きな力になると思います。

○特別支援学級の進路について

特別支援学級の生徒にとっても、進路の選択肢は年々広がっています。以下のような進路先が考えられます。

- ・通常の高等学校(全日制・定時制・通信制)
- ・私立高等学校やサポート校との併修
- ・特別支援学校高等部(職業科、生活科など)
- ・高等専修学校(資格取得型・専門技術系)
- ・就職(支援機関と連携しながら)

それぞれの進路には特性に応じたサポートが必要です。進路学習や三者面談、学校見学、体験学習などの機会を大切にしながら、生徒一人ひとりの希望に寄り添って支援していきます。

○最後に

進路選択は「将来を見据えた第一歩」であり、「人生すべてを決めるもの」ではありません。私たちは、「どの道を生徒が選んでも応援する」「どの道にも価値がある」という思いをもって、生徒一人ひとりと向き合っています。

どうか保護者の皆様も、子どもの夢や個性を信じ、共に悩み、共に考えていただければ幸いです。この1年間、ご家庭と協力しながら、生徒が納得して進路を選択できるよう支援してまいります。

今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。